

令和元年度一橋大学附属図書館企画展示



2019  
11.5<sup>土</sup> - 29<sup>日</sup>

土・日・祝日は閉室

ただし、一橋祭期間中(22日(金)～24日(日))は開室

■ 開室時間

10:00 - 17:00

11月24日(日)のみ16:00閉室

■ 会場

一橋大学附属図書館展示室  
(時計台棟1階)

■ アクセス

JR中央線国立駅下車南口徒歩約10分

JR南武線谷保駅下車北口徒歩約20分または国立駅行バス「一橋大学」下車

■ 問い合わせ

一橋大学附属図書館 〒186-8602 東京都国立市中2丁目1

TEL:042-580-8240 <http://www.lib.hit-u.ac.jp>

主催：一橋大学附属図書館

協力：一橋祭運営委員会、GT会



# 今回の展示について



---



今日の一般的な形式の学園祭は1950年代に始まったといわれています。一橋大学では、それに先駆けて1946（昭和21）年に終戦後第1回の「一橋復興祭」が開催され、その後「一橋祭」が毎年実施されてきました。

回数を重ねてきた一橋祭は24年目の1969（昭和44）年に転機を迎えます。前年から活発化した大学紛争は一橋大学にも及び、5月から約5ヶ月もの間、本館が封鎖されてしまいます。この影響で一橋祭運営委員会は一橋祭の中止を決断します。一橋新聞に掲載された記事には一橋祭の中止の宣言と、これまでの一橋祭への総括と弔辞、そして「新生すべき」一橋祭への決意が綴られています。

翌1970（昭和45）年の一橋祭は、新たな運営委員会によって始動しました。パンフレットに綴られた「実録・一橋祭」や、一橋新聞上で繰り広げられたサークル共闘会準備会からの公開質問状とその回答のやりとりから、実施までの紆余曲折が読み取れます。

一橋祭は一度の中止をはさみながらも、今日まで実施され続けてきました。毎年、数々の企画が行われ、数々の著名人をゲストとして招いてきました。それらは時代を映す鏡とも言えるでしょう。一橋祭を振り返り、当時に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

## 《参考文献》

※【 】内は一橋大学附属図書館の請求記号です。

- 一橋大学学園史刊行委員会編『一橋大学百二十年史：captain of industryをこえて』国立：一橋大学, 1995【3700:3286】【Az:234】
- 一橋大学学園史編纂事業委員会編集『戦後と一橋』東京：一橋大学学園史編纂事業委員会, 1983（一橋大学学園史資料）【089:17】【Az:182】
- 『一橋大学年譜』1：明治8年8月-昭和21年3月. 国立：一橋大学, 1976【3700:18:1】【Az:137:1】【082:7:1】
- 『一橋大学年譜』2：昭和20年1月-昭和63年12月. 国立：一橋大学, 2004【3700:18:2】【Az:137:2】【082:7:2】

今回の展示に関し、今年度の一橋祭運営委員会およびGT会(一橋祭運営委員会OB・OG組織)から、展示資料の提供をはじめ多大のご支援・ご協力をいただいております。記して感謝申し上げます。

# 資料紹介

※【 】内は一橋大学附属図書館の請求記号です。

- 一橋祭実行委員会「「一橋」祭の埋葬と新生すべき「祭」に向けて」『一橋新聞』1969年11月1日 p.3 【ZZ:7】
- サークル共闘会議準備会「一橋祭運営委に公開質問状」『一橋新聞』1970年10月16日 p.4 【ZZ:7】
- 『一橋祭』国立：一橋祭運営委員会，1965-2019 [一橋祭公式パンフレット] 【Az:257】
- 「実録・一橋祭 その（1）一橋祭運営委員会の記録」『一橋祭』1970年 p.113-118
- 「実録・一橋祭 その（2）パビリオン誘致計画の転末」『一橋祭』1970年 p.119-128
- 宮崎駿講演「現代において古典的冒険活劇はありうるか：一九八六年十一月二日、一橋大学国立校舎にて（総特集 宮崎駿の世界）」『ユリイカ』29（11）p.138-150（1997年8月臨時増刊号）【ZP:181】  
「この催しは、当初三〇分の講演、三〇分の質疑応答の予定で始められたが、観客との白熱した応酬が続き、結局都合二回の休憩を挟んで六時間の長きにまで及んだ。ここにはその約三分の一程を収録した。」（p.139）
- 『一橋祭新聞』  
一橋祭運営委委員会が独自に発行していた広報紙。『一橋新聞』とは全く別もの。1999年まではWordで作っていましたが、2000年に組版ソフトを導入して、本格的な新聞のようなレイアウトになりました。
- 『夏本』『秋本』 国立：一橋祭運営委員会 【Az:448】  
受験生向けに作成された小冊子。各学部の紹介や合格体験記などが掲載されています。表紙・裏表紙に時々の一橋祭マスコットキャラクターがあしらわれているものもあります。
- 笠井紀美子 日野皓正 ジョイントコンサート チケット 演奏日1972（昭和47）年11月4日
- 法被（ハッピー） 一橋祭運営委員の法被。毎年、委員の中でデザインが決まる、その年限定モノです。
- 1970年一橋祭 動画映像（上映時間：7分43秒）  
撮影：元一橋祭運営委委員（第3代）喜勢成明（昭和49年商学部卒業）  
映像の冒頭から5分前後の所に映っているトレンチコートの男性は一橋大学元学長の増田四郎氏。大学通りで開催されている天下市、市民まつりも映っています。歩行者天国もこの年から始まりました。
- 顔出し看板 Get Epoch 2019年一橋祭運営委員会1年生制作

※本件は「国立大学フェスタ2019」  
(<https://www.janu.jp/univ/festa/>)  
の参加企画です。

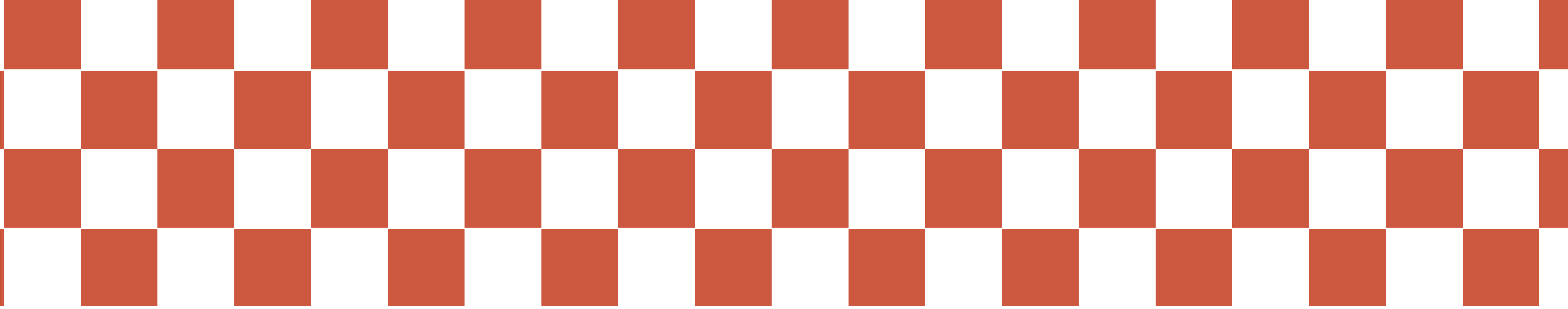


2019（令和元）年11月5日発行

一橋大学附属図書館

〒186-8602 東京都国立市中2-1

TEL:042-580-8240 FAX:042-580-8251



令和元年度一橋大学附属図書館企画展示

# 一橋祭いまむかし

数十年に渡り実施されてきた一橋祭の歴史を、  
現役の一橋祭運営委員会および  
GT会（一橋祭運営委員会 OB・OG 組織）と協働し振り返ります。

